

第4回川口市行政評価外部評価委員会			
日 時	平成30年8月10日(金)14:30~16:00	場所	本庁舎5階 大会議室
評価委員	石川委員長、佐藤副委員長、入野委員、隅内委員、田中委員、團野委員、増田委員、矢野委員、稲垣委員、世古委員	傍聴者数	0名
事務局	岩城企画財政部長 藤田課長、竹田課長補佐、秋山主任、新谷主任、菊池主事補		

議事(1) 各部会の評価結果について
<p>○事務局より評価対象事業の事業概要について説明</p> <p>○各事業の評価の経過及び結果について各部会長より報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第一部会長 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 霊園施設管理費 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 各項目について、しっかり見直さなければならないということが共通した見解であった。昭和41年に条例制定され、その後一部改正はあったものの、条例改正がほとんど行われていないことや、特定の市民のみでしか利用できない状況が続いていることから見て、公平性が欠けているという意見が多く聞かれた。墓地一区画の広さの検討や、合祀するなどの方法も考えたほうがよいのではないかと、また、情報収集をし、民間とも比較した上で、今後の方針を検討してほしいというのが共通した意見であった。 ➢ 生活保護受給者就労支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 法定事業であるということから、必要性・効率性は概ね適正である。事業の効率化・課題への取り組み・今後の事業の方向性に関しては改善の必要ありということであったが、一定の効果があるということもわかった。また、関連団体や企業との情報共有をさらに図ることや、受け入れ先とのフォローアップ協議体の設置などを検討してみてもどうかという意見や、当事業は国の補助事業でもあることから、その収入・支出を精査して、どこに重点を置くことができるか検討してほしいという意見があった。 ➢ 廃棄物減量啓発事業・事業系廃棄物対策事業 <ul style="list-style-type: none"> ◇ ごみ処理は市の重要な仕事であることから、資源循環型社会に向けて、外国人も含めて、全市民の理解を得るような努力をすること、また、外国人住民が多い先進自治体の経験則に学ぶことも必要であるという意見があった。また、人と人の繋がりがとても大切な事業であり、組織的な連携や取り組みが必要であることから、市の各機関だけでなく、他の機関との連携も含め、組織的な連携や取り組みが必要ではないかという意見があった。 ● 第二部会長 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 多文化共生推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 外国人住民が急激に増加しており、事業の必要性は高いと考える。事業の説明の中で、ごみの出し方として、事業系廃棄物が一般ごみとして排出されているという問題点があった。広報的な当事業と、実働的な廃棄物対策事業を分離して実施するのではなく、総

合的に実施してはどうかという議論があった。また、外国人住民が増加する中で、事業の成果の検証をすべきであるという議論がされた。国際交流員、外国人相談員は配置しているが、人員が足りていないとの説明があった。今後も外国人の増加が見込まれている中で、人員の確保や他の組織との連携の必要性及び、今後の共生の方向性を市が明確に示す必要があるという意見があった。

➤ 緊急通報装置整備事業

◇ 事業の必要性は認めるが、公平性については、大きく分け、二つの内容について議論となった。一つは対象年齢が概ね 65 歳以上という年齢設定について、緊急を要する疾病は 65 歳以前にも発症する可能性があるのではないかという議論。もう一つは、21 疾患と新たな 4 疾患を対象にしており、利用するには 21 疾患の場合には医師の診断が必要であるが、新たな 4 疾患の場合には、対象と認めるか否かの判断を保健師によってなされていることが公平性に欠けるのではないかという議論があった。また、10 年間委託業者が変わっていないということは、市民の目から見ると、若干疑問が残る。対応できる業者が限られているのだろうが、業者選定の方法を見直してもよいのではないかという意見もあった。

➤ アートギャラリー企画関係費・アートギャラリー事業運営費

◇ その名の通り、アートギャラリーアトリアの企画・運営にかかる費用であるが、アートギャラリー企画関係費については、自主事業として、担当課が企画している事業の費用であり、アートギャラリー事業運営費については、共催事業として、学校等と共催して実施するものや、貸しギャラリーによる費用である。また、アートギャラリー事業運営費の方で、美術専門員を雇用しているということであるが、企画関係費に係る事業についても関与しているとのことであった。なぜ予算を二つに分けているかの理由については明確な根拠の説明を得られなかった。利用状況については、年間 300 日程度使っており、様々なイベントに意味があり入場者数も確保できているということから、運営状況は良好であるといえるのではないか。来場者数のみが指標となるのではなく、質的な評価指標も必要であるという課題は担当課とも共有できたと認識している。工業製品について、機能だけでなく、デザインも問われる時代になってきたとの指摘もあった。文化政策は重要であると思うが、市の財源が減少した場合に予算を削られる可能性が高い。現在行っていることを守るだけでなく、中長期的展望を持ち、今後展開したい企画案や、そのために必要な人材等を戦略的に示していく必要があるのではないかと指摘をした。

議事（2）意見交換

○各委員より、今年度の外部評価の感想を発表

● A 委員

➤ 今回評価した事業は、日常に密着したものが多く、様々な観点から意見が述べられたと思う。

● B 委員

➤ 民間は独自で方針を決めることができるが、市役所の仕事は、個々の発案があっても実践す

ることは容易ではない。様々な意見やルールの中で努力されていることは評価する中で感じた。外部評価の役割はそれを分かった上で、市民目線の行政評価をするということで、改めて重要な委員会であると感じた。

● C委員

➤ 今回の評価対象事業はどれも身近なものであるとともに、解決することが非常に難しいものであるように思う。日々、解決できるよう考えながら行政を進めていくことが大切だと感じた。

● D委員

➤ 知識や経験が少なく、評価することは難しかったが、様々な意見や実情を聞いたので、来年度の評価に活かしていきたいと思う。

● E委員

➤ 市として多くの事業を行っていると感じた。イベントなど広報しているのだろうが、気付かずに参加できていないので、今後はイベント等に参加し、外部評価に活かしていきたいと思う。

● F委員

➤ 企業であれば売り上げや利益等、経営の重大な指標があり、それに沿って経営していくが、行政では指標を定めること自体が難しいと感じた。民間団体や企業と行政は市場原理や役割も全く違い、非常に勉強になった。

● G委員

➤ 行政の仕事は以前にも増して複雑になっているとともに、非常に多くの事業を実施していると感じた。廃止してもいいような事業もあるだろうが、多文化共生推進事業のように、今後拡大していかなければならない事業も多々あるのだと感じた。今後経験したことのない問題が出てくることもあるだろうが、市には柔軟に対応してもらいたい。

● H委員

➤ 市はより良い事業を数多く実施していると思うので、SNS等を活用して周知を徹底してほしいと思う。また、民間企業は、常に営利を目的としているため、行政とは根本的に違うかもしれないが、よりよいサービス、よりよい業者を探すことなどについては、民間と同じ感覚を持って対応することが大切なことだと思う。

● 副委員長

➤ 評価とコメントについて、評価の得点が目に見える結果となるが、質的なコメントの方が役に立つのではないかと考える。今後の事業実施に還元できるようなコメントをしていきたいと思う。質疑応答となると、担当課と対抗関係になってしまうが、いかにコミュニケーションを取れるかを考えている。質疑応答ではなく、ディスカッションすることによりコミュニケーションをとることができれば、今後の事業実施により役立つのではないと思う。また、問題の指摘だけではなく、共有できることを担当課と確認することでコミュニケーションを図るようにしている。最後に、外部評価委員会の役割についてであるが、市民としてのチェック機能や、PDCAサイクルの仕組みであることだけではなく、職員の能力開発としての役割もあると思う。担当課による説明の上達など、職員の能力開発に役立つことがあれば、この会議を行っている意義を感じることができると思う。

● 委員長

- 行政評価調書の事務分類において、自治事務のうち任意的なものであっても、自治事務のうち義務的なものを選択されていることがある。担当としては、自治事務のうち義務的なものとして実施し、市民に対して責任を持って実施しなければならないとの認識であるのだろうが、任意的なものでも大事な事業はたくさんあり、事業全体を見ていく上での考え方、捉え方の問題があると思う。事業評価の対象となった各担当課は、どのような指摘を受けるのかと身構えることもあるだろうが、反発するのではなくお互いが理解することが大事である。事業評価は、研修の一つでもあるし、職員能力を向上させるための大きな一つの機会でもあると思う。職員にとっては厳しい場であると同時に、教わる場でもあるため、考えを切り替えていくための一つの機会という位置づけでこれからもやっていければと思う。

以上